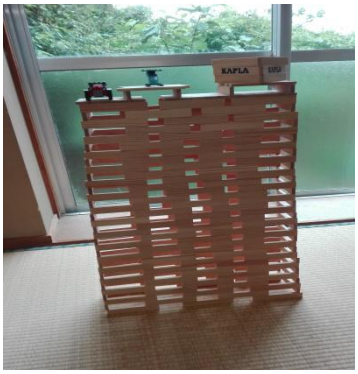
「ともだち」だより10月号 NO.1　　2018（平成30）

年１０月９日（火）発行



社会福祉法人笠木福祉会　放課後等デイともだち　発行責任者　中根賢明

こどもの最善の利益を求めてー「ともだち」の願いー⑥　　管理者：中根賢明

１）　こどもに《生きる力》となる「自己肯定感」を！

【こどもから《生きる力》を奪っている社会】

豊かで便利な社会は，私たちに快適な暮らしをしています。ます。しかし，すでに述べたように，便利な生活には，負の問題もあります。人間が生きていく上で大切なものを奪いました。「体力がない」「生活リズムが出来ていない」「添加物だらけの食品だけで，まともな食べ物が少ない」「薬の使い過ぎで薬が効かなくなり，病気が治らない」などなど。

便利な社会はまた，こどもたちから「生きるたくましさと夢」を奪いました。「何をしたい？」「夢はなに？」と聞いても「別にありません」と無気力な返事が多くなりました。

私たちの快適な生活は。高度に発達した科学技術文明のお蔭です。それは人間の脳が，複雑精緻に発達した結果です。反面発達しすぎた人間の脳は，少しの不具合で発達障碍がおこったと言われます。さらに困ったことは，経済が豊かになり，頭が良くなったために，学歴《競争社会》がはげしくなったことです。

【こどもから《自尊心と自信》を奪った競争社会】

競争社会は，他人に勝つこと，負けてはいけないのです。仲よくすることが善ではなく，蹴落として勝つことが善なのです。そうして，みんなが相手を蹴落とすために闘っている社会となりました。

競争は，勝者と敗者がいて成り立ち，そこに序列ができます。勝った者，上に立つ者は，負けた者，下の物を見下します。そのため，だれもが《負けるものか！》と頑張りますが，一番がいれば，かならずビリが生まれるのです。頭の良い者同士が競争しても，かならずビリも出てくるのです。**「比較するから，優劣が生まれる」**のです。考えてみれば，ビリがいる，負けた者がいる《お蔭》で，勝者は威張れるのです。

敗者は《劣等感》を植え付けられ，それが続くと「どうせ，自分はダメなんだ」「生きる値打ちもない」と，生きる希望を失い，「自分は自分でいいんだ！」という自己肯定感も失っています。

【保護者にお願い！《比べない子育て》を！】 ～私は私でいい！」と言えるこどもに～

そこで保護者の方にお願いです。こどもと話すとき，どうか兄弟姉妹，またはとなりの子と比べて，評価しないください。「姉ちゃんはしっかりしていい子だけど，あなたはどうしようもない子だ！」と言われるとこどものプライドはズタズタです。お父さんやお母さんも他の人と比べられ，批評されると怒りや悲しみがこみあげてくるはずです。ところが親は，自分のことは忘れて，平気で他の子と比較して，「お前はダメだ！」となじります。あるいは，ときどきニュースになるように「シツケだ」と分かったようなことを言って，平然と虐待を繰り返す親もたくさんいます。こどもは傷つき，自己肯定感が育つはずもありません。

【こどもの人権を侵してはならない！】

昔から親は，こどもを平気に傷つけることばを吐き，平気で殴ってきました。

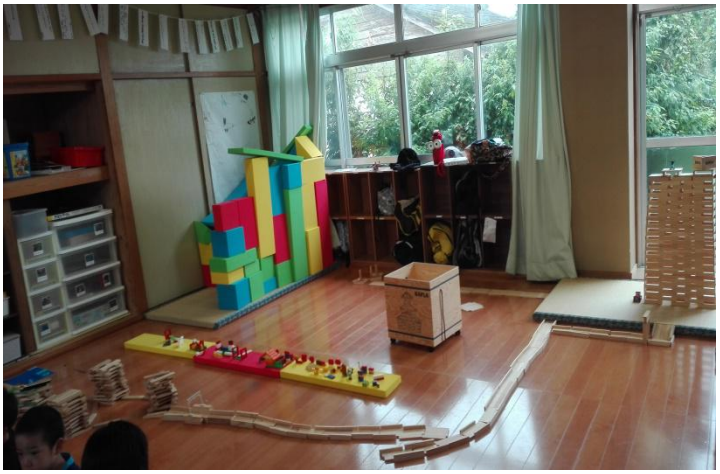
しかし，それは**絶対に許されない**時代になったのです。こどもの人権を大事にした考え方と話し方を工夫してください。そしていいところをほめて評価し，親の「こどもへの願い」を説教ではなく，語ってください。それを繰り返すことで，こどもは自分を認め，自尊心を高め，自己肯定感を育みます。

《10月の予定》6日：龍樹とのカラ芋堀交流　13日学童くらぶ「げんきぼ」との焼き芋交流
27日：弁当の日　金御岳（かねみだけ：都城市）登山

９月の活動

みんなで街づくり　～点から線、そして面へ～

9 月 29 日（土）は、岩川小学校の運動会へ応援に行く予定でしたが、本格的台風の到来で中止。そして、「ともだち」では、室内遊びで楽しく過ごしたいと考えました。最近の子どもたちは、レゴブロックで楽しんでいます。そこで、今日は街を作ろう！と提案しました。子供たちは、すんなりと OK してくれたので、3 つのグループに分け、そのメンバーについても提案したところ賛成してくれました。「それぞれのグループで話し合って作って下さい。」という言葉で街づくり遊びが始まりました。そこには具体的な設計図等はなかったので、子ども達はそれぞれのグループに分かれてからそれぞれが作りたいものを作っていました。

支援員と一緒に色々な家づくりに挑戦するグループの華純さん(小 1)、結人君(小２)は、レゴブロックでお家づくりをしました。カプラで支援員と団地やビルを作っている姫羽さん(小 4)、真心さん(小２)。優心君(小 3)は、「大きなラーメン屋さんを作る！」と言い、ソフトブロックを積み上げます。2 つ目のグループは自動車を侑士君(小 2)、新幹線を瑠唯君(小 4)、家づくりを武流君(小 4)、そして、高学年グループの剛志君(小 6)は、飛行機と言って戦闘機を作っています。悠斗君は(小 5)はカプラで高層ビル。さすがに高学年は本物により近づけて上手く作っており立派なものです。

それぞれが、自分の作りたいものをレゴブロックにこだわらず造り上げていました。自分で造り上げたことで大満足な子ども達。「できた！」「面白い」「楽しい」とつぶやきも聞かれ、心から楽んでいるな。と感じられました。新幹線をつくり満足している瑠唯君に、支援員が、「どこを走り、どこへ行くの？」と問いました。「あ、そうか！」と他の子も気づき、あわてて線路、滑走路、道路を作り、高層ビルから、街へ、空港へ、団地へ繋がりました。1 人ひとりの作った点が、道路でつながって線になり、繋がった街が面となり、街づくりが完成しました。子ども達は 1 人ひとりの思いで取り組み、それぞれが自分の作品に満足し、それを共に喜び合いました。そんな、満足感と共感、（友達と一緒に造りあげた喜びを共に感じる経験）が「自己肯定感」を育んでいきます。